



5月21日(木)

## 福岡で酒米を田植え

**皆** 生温泉オリジナルの日本酒の原料となる酒米「五百万石」の田植えが5月21日、伯耆町福岡の水田で行われました。

今年で8年目となるこの田植えに参加したのは、皆生温泉旅館組合青年部、千代むすび酒造、どぶろく製造の(株)上代のメンバーのほか、今回初参加で二部を拠点に活動している、森のようちえん・michikuusa(みちくさ)の子どもたち11人を加えた総勢約30人。

参加者は、18アールの水田の一部で横一列になり、苗を植える場所に目印を付けたロープに沿って、おいしい日本酒に仕上がるようにと願いを込めながら、丁寧に苗を手植えました。この酒米で出来た日本酒は、来年2月に「海に降る雪 上代」という銘柄で、皆生温泉旅館の宿泊客などに提供されます。



▲苗を丁寧に手植えました

5月15日(金)

## 交通事故死ゼロを目指して 春の全国交通安全運動

**春** の全国交通安全運動が5月11日～20日の10日間、「子どもと高齢者の交通事故防止」を基本テーマに掲げ、全国各地で交通安全指導などが行われました。鳥取県では、「ゆずり合うゆとりと笑顔 防

ぐ事故」をスローガンに運動を展開。伯耆町内では、児童生徒の通学路などでの見守りや、江府町と合同で街頭啓発活動が行われました。

5月15日、JA溝口支所前で行われた街頭啓発活動では、黒坂警察署、2町の交通安全協会、交通安全保護者の会の会員のほか、溝口保育所の園児など約60人が参加しました。警察署員が国道181号からAコープ溝口店の駐車場に車を誘導し、園児らがドライバークラス・動物マスコット・チューニングガムなどが入った啓発グッズを手渡しながら、「交通安全よろしくお願いします」と呼びかけました。

黒坂警察署の原本良二署長は、「寝不足や過労で運転が散漫になる時期

なので、十分に注意して運転してほしい」と話していました。運動期間以外でも安全運転を心がけ、交通死亡事故ゼロを目指しましょう。

▲「安全運転よろしく  
お願いします！」と  
力強くドライバーに  
呼びかけました



6月1日(月)

## プレミアム付商品券販売開始!

**伯** 耆町商工会が町内の消費喚起の一策として打ち出した伯耆町プレミアム付だんだん商品券が、6月1日から販売開始されました。

販売初日、第1会場の農村環境改善センターでは、午前10時の販売開始に合わせ、券を手にする瞬間を今か今かと待ちわびた多くの方が、2階の会場から1階の入り口まで約200メートルにも及ぶ長蛇の列を作りました。第2会場の溝口体育館でも、午前10時までに約60人が並び、購入まで約1時間待ちとなる大盛況でした。発売初日から2日目までに、発行総冊数7千500冊に対し、約6千冊



▲商品券を求め方で会場はいっぱい

(金額にして6千万円分)が販売されました。

朝7時から並び、最初にだんだん商品券を手にした男性は、「とても楽しみに待っていた」と話し、赤ちゃん連れの若いお母さんは、「日々の買い物に使いたい」と話していました。

伯耆町プレミアム付だんだん商品券は、町内の飲食店や食料品店など約70店舗で10月末まで使えます。販売価格は1冊1万円、1万2千円分の買い物ができます。だんだん商品券の販売は、引き続き伯耆町商工会館(JR岸本駅)で行われ、売切れ次第終了です。



▲購入者の中には若いお母さんの姿も!

5月10日(日)

## 世代を超えた交流事業 日光小学校わらび採り遠足

**日** 光演習場で、5月10日、日光小学校のわらび採り遠足が行われました。

このわらび採り遠足は40年以上も前から行われており、児童だけではなく、保護者をはじめ地域の住民など、大人も一緒に参加しています。

朝8時過ぎ、全校児童8人と保護者・職員、日光地区と交流のある鳥取環境大学の学生と職員が日光小学校に集合し、日光演習場へ向けて出発。日光演習場で地域の方と合流し、総勢約60人でわらび採りを行いました。鳥取環境大学の学生のほとんどがわらび採りは初体験で、地域の方や児童たちに採り方を教えても



▲集めたわらびを大きさ別に仕分け

らいながら、一緒にわらび採りを楽しみました。

今年は、わらび採りの後に、伯耆町遺族会の米田寛さんから、日光演習場内にある忠魂碑の由来や日ごろ管理をされている方の思いや願いについて話を聞き、参加者は熱心に耳を傾けました。

この日はおよそ1時間半で約40kgのわらびが採れました。採れたわらびは、町内の給食センターや日光交流センター山隠れの里などに買い取ってもらいました。収益はPTA活動の費用など、子どもたちのために使われます。



▲忠魂碑について語る米田寛さん